



11/9 雄武高校出前型ワークショップ 仕事のやりがいて？

この日、雄武高校の1・2年生を対象に、オホーツク管内で働く20～30代の若手社会人5人から仕事のやりがいなどを学ぶ高校生向け出前型ワークショップが開催されました。この取り組みは、地域の職業を知り、地元での就職につながることを目的として実施しています。生徒からは「札幌など地元以外のところに行こうと思わなかったのか」など、積極的な質問が多く上がり、社会人たちは「地元のためになる仕事をしたいと考えていた」などと話していました。



↑若手社会人に質問をする高校生



↑割合の違う韃靼そばを試食する岡田教授

11/15 日本体育大学岡田隆教授とコラボ 韃靼そばの新たな試み

株式会社神門では、アスリート向けの韃靼そばの開発に取り組んでおり、新商品の共同開発を行っている骨格評論家として《バズーカ岡田》の名前でメディア出演する日本体育大学教授の岡田隆氏が雄武町を訪れました。岡田教授は、韃靼そばの試食、畑や製粉工場で加工・製作工程などを視察し、株式会社神門の石井社長との意見交換を行い「素材の味を大切に、健康へ導いていくアスリート向けのそばを神門さんと一緒に作っていきたいです」と新たな試みに対する熱い思いを話してくれました。

11/15 雄武町高齢者教室「生きがい大学」 運動不足の解消に

この日、町民センターにおいて、第5回雄武町高齢者教室「生きがい大学」が開催され、受講生19人が参加しました。講師に、フィットネスインストラクターの鷲美幸氏を招き、家でも無理なくできるリズム体操や複数の動作を交えて脳を使う体操を教わりました。その後、工作で自分だけのりんご型張り子の作成を行いました。参加した受講生は「家でも簡単にできる体操でこれからも続けていきたい」「次回の張り子の完成が楽しみ」と話してくれました。



↑家でもできるストレッチの実践



↑新しい雄武音頭の振り付けを教わる来場者

11/17 まちの喫茶店 楽しく踊ろう

この日、沢木住民センターつどいれでまちの喫茶店が開催され、多くの人々が来場しました。会場には、昔懐かしい雄武町の風景画集や自治会での活動写真などが設置されており、来場者たちはそれらの写真を手に取り、思い出話に花を咲かせていました。また、地域包括支援センターが偶然発見した雄武音頭の音源を使い、雄武町観光協会が新しく作った雄武音頭の振り付けを教わるなど、昔を懐かしむ楽しいひと時を過ごしていました。

10/18,19 雄武町地域包括支援センター地域支援事業 認知症について考える

雄武町役場職員を対象とした認知症サポーター養成講座が2日間に分かれて実施されました。地域包括支援センターでは、地域全体で認知症高齢者の見守りができるように、認知症の対応方法などを学ぶ場として認知症サポーター養成講座を開催しています。今回は、町職員として、認知症を正しく理解し支援することで、認知症になっても安心して暮らすことのできるまちづくりの展開を目指し、実際の事例を基にした寸劇の動画を視聴し、グループワークなどを行いました。認知症についての理解を深め、これからの業務にどう活かしていくかについて話しあいました。



↑グループワークで認知症について話し合う参加者たち

10/27 トレーニング機器利用説明会 機器の正しい利用を

雄武町ファミリースポーツセンターで、スポーツ振興くじ助成金を活用し導入したトレーニング機器の利用説明会が行われ、町民15人が参加しました。導入した機器のメーカーであるセノー株式会社の小西竜太郎氏を講師に、機器の正しい利用方法のほか、機器を使った効果的なトレーニングのやり方などについて解説が行われました。参加者からは「新しい機器が追加されて嬉しい。定期的に通いたい」などの声がありました。どなたでもご利用できますので、お気軽にお越しください。



↑利用説明会の様子



↑ウォロカムイチャシ跡（北幌内）での説明の様子

10/30 観光資源の調査・研究・保存並びに開発事業 雄武の遺跡を学ぶ

この日、町内にて、名寄市在住の日本考古学協会員の氏江敏文氏を招き、アイヌ文化のチャシ跡と雄武町内にあるチャシ跡の特徴について学ぶ「雄武の遺跡探訪」が開催され、町内外から8人が参加しました。前半は、地域交流センターの会議室でアイヌ文化や町内のチャシ跡の特徴について学び、後半では、実際に高野チャシ跡やウォロカムイチャシ跡などを実際に訪れ、雄武の地に息づいていた自然とアイヌの息吹を感じました。